



みずみどり

2022年 8月1日 第151号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 090-1423-9894

アメリカザリガニ

自然の池は困っています

改正外来生物法が5月に成立し、アメリカザリガニの輸入、販売、野外への放出が禁止されました。これまでもアメリカザリガニの規制は検討されてきましたが、子ども達の身近な遊び相手の、ザリガニが規制によって大量に捨てられると、深刻な被害が出るおそれがあるので、環境省では、家庭で今飼っている個体は公園などに放したりせず、最後まで飼うよう訴えています。



飼っているザリガニを
放すのはやめてね
最後まで面倒を見てね

かわいいザリガニの自然破壊力はハンパではありません。

この赤塚とんぼ池は、計画から池づくり作業まで区民参加により1999年にできた自然池ですが、完成して1カ月でザリガニが侵入し、繁殖してきました。巣穴を掘り、泥の下で生活するザリガニにとって土の池は絶好の生息環境です。雑食性で水草（落ち葉も）や水生生物も食べます。植えた水草も消失、オタマジャクシを食べているところを目撃してショック、トンボが産卵してもヤゴを確認できず、いろいろ工夫して捕獲してきましたが、繁殖に追いつかず今まで来ません。自然にとっては困った生き物でも、子ども達には大人気、ザリガニのためなら、フェンスなど苦にせず乗り越えてゲット・・・となるのでザリガニのことは公表しませんでした。環境省は、「入れない！捨てない！掘げない！ STOP！アメリカザリガニ」キャンペーンにより、自然に与える影響についてPRしています。

水と緑の会では、これまでもザリガニを捕獲してきましたが、見た目は浅くても泥深いとんぼ池に適したザリガニ捕獲方法を検討し、ザリガニ対策を検討しています。

部分的にザリガニがすみにくい池にして、ザリガニと共存できないか

ザリガニは泥深いところが好きです。透明で浅いと天敵に狙われるからでしょう。大仏下から引いてきた湧き水は、とんぼ池の左端（美術館側）から流入しています（フェンス際で見えます）。この場所は陸地から手入れしやすいので、浅く、水面が見えるように水草や周囲の草を刈っています。ザリガニが外敵から丸見えになり、居心地が悪くさせる作戦です。実際この場所だけザリガニが少ないようです。

トンボのヤゴにはこの場所が比較的安全です。7月21日、ムギワラトンボがちょっと産卵してすぐにいなくなりました。開放的な水辺を好まないトンボもいるので、どうでしょうか。





コサギさん、カワセミさん
とんぼ池に来てね

ザリガニを食べる鳥たちは、とんぼ池の味方

come back!! コサギ、カワセミ、ゴイサギ、モズ、カラス?

彼らはザリガニの天敵です。コサギは足で泥を掻いて2、3匹ザリガニを食べて飛び立ちました。カワセミは水面が見える枝に止まっているのを何度か見ました。カワセミはザリガニが好物かどうかわかりませんが、ザリガニを食べたという報告も聞いています。ゴイサギが来たこともありましたが、モズはときどきとんぼ池に来ます。モズは捕った虫などを木の枝に刺して残す習性があり、私は干からびたザリガニが枝に刺さっているのを見たことがあります。

カラスはよくとんぼ池に来て、水を飲んだり畦に止まって鳴いています。「試しにザリガニを食べてみてごらんよ」と声をかけていますが・・・



とんぼ池ができたときは、池のそばに木はありませんでした。

20年もたつと木が覆い被さり上空からの視界を妨げています。自然に育った木を切るのは抵抗がありますが、水鳥たちが上空から池の水面が見えるようにするため、手始めに橋のそばにあるミズキの大枝を2本切りました。左奥の覆い被さった枝も剪定する予定です。

気が付いたらとんぼ池ができて23年もたちました。当時は自然の池なのでゴミを拾ったり観察することが中心でした。3年ほどで日当たりのよいフェンス際に、ケヤキ、ヤナギ、アカメガシワ、ネムノキ、ムルデ、ミズキ等が生えてきましたが、知らないうちになくなっていたり（切ってしまった）、大きくなった木は切り倒したり・・・そんなことをくり返してきました。

自然は気が付かないうちに、どんどん移り変わっていくものなのですね。城址の斜面林も大きくなり、池のまわりの木も大木になっていました。枝葉が池を覆い被さっています。

自然の泉が木に囲まれた森の中にあるのは普通です。しかし自然のままだと藪の中の沼になってしまいます。そばに美術館があり郷土資料館があり、たくさんの人が訪れるため池に自然の池があることはすばらしいことです。都会人にも自然を感じてもらえるよう、自然まかせでなく、少し手を入れて、都会人にもウケる？自然池らしく、大事にしていきたいと思います。

とんぼ池の魅力

1 湧き水の池

池の水は水道水ではなく、湧き水です。フェンス越しに見えるよう、ここは頻繁に草刈りをしています。都内で身近に湧き水が流れる自然の水辺ってすてきでしょう？。水源は200m程離れている大仏下で、パイプで導水していますが、とんぼ池の裏で自然の流れになっています。うしろの斜面林と一体となった自然がほっとさせてくれます。自然っていいね、と言われます。

2 トンボのヤゴやオタマジャクシが育つ場所として

オタマジャクシやトンボのヤゴが育つ環境を取り戻すのが目標です。難題です。現場をよくよく観察する、作戦を考える、試してみる、また工夫する、などなどやっています。

3 ため池公園や見次公園にない水辺の植物がある

ウキヤガラ、セリ、イ、クレソン、アゼナルコスゲ、タコノアシ（クレソンとセリは池ができてしばらくして生えてきました）。

池ができたとき、水草を植えました。購入先が岐阜県だとわかって大問題になりました。「ビオトープは地元の水草で地元の生き物が自然にやってくるのを待つ」のが原則だからです。幸か不幸か、植えた水草はすべて消失しました。

水草を入手しようにも身近に昔からある自然の池はありません。そこで、地元産の水草を入手できる場所として荒川の板橋区域から秋が瀬までとし、2000年、荒川河川敷の溝から許可を得て採取し移植しました。今残っているのはイ（畳の原料のイグサ）とウキヤガラです（ウキヤガラは今の荒川では見られないそうです）。

また戸田市の彩湖自然学習センターに行って、トダスゲ、ヒシ、タコノアシをいただきました。トダスゲは荒川の戸田ヶ原（戸田市）にちなんだ名前のスゲです。ヒシは昔のため池に生えていたそうです。すぐにみんな消失しました。そのタコノアシ（おもしろい植物名ですね。花が

吸盤の多いタコの足に見えることからついた名前です) を植えて20年以上もたってとんぼ池の正面に生えてきて花が咲き始めました。秋には実だけでなく全草が紅葉するそうです。楽しみです。

今は、人も、モノも、植物も移動する時代です。自然の場所に生えているものでもよそで採取した植物かもしれません。でも、タコノアシは間違いなく生まれは荒川流域で、20年以上前に戸田市の自然学習センターの池からやってきた植物です。植物の生存力、すごいですね。



左 タコノアシ、右タコノアシの花



中左 ウキヤガラ 荒川河川敷の溝から採取した。とんぼ池になじんでよく育っている。

中右 水際を踏みつけられ植物が育たなかった頃、最強の水草として植えた荒川のヨシ。4月頃は涼やかだが、夏になると2m以上になる。

左下 3年前から日当たりのよい畦に生えてきたアゼナルコスゲ。どこから来たのかわからない。植物の土と一緒に来たのかも。

ボロボロになったエノキの葉にいた虫たち

4月23日、バッタ広場ではじめてカメノコテントウを見ました。後日バッタ広場のそばのエノキの葉がボロボロになっていました。ハムシが食べまくったようです。ハムシは盛大に葉を食べると聞きましたが、その通りでした。そこにカメノコテントウがいました。カメノコテントウはテントウムシの仲間でハムシ（エノキハムシ）の幼虫を食べます。とても大きくてちょっと平たくて洋服のボタンのような感じ。幼虫もサナギも大きめのテントウムシの幼虫とサナギです。ボロボロのエノキの葉に今まで出会ったことがないカメノコテントウが来ていたことに驚きました。そばにシマサシガメもいて、エノキハムシに喰いついていました（囓るのではなく汁を吸う）。6月半ばになるとエノキハムシはいなくなりました。成虫になったと思います。食べる幼虫がいなくなってカメノコテントウもいなくなりました。エサを探して旅に出たのか、・・・7月初めため池でカメノコテントウの死骸を見ました。

エノキハムシはテントウムシほどの大きさで、成虫はコガネムシの様な形をしています。夏になるとバッタ広場でも見られると思います。

一生懸命生きている小さな生き物達のドラマを見ているようでした。みんながんばってね。



左上：カメノコテントウ（成虫） 右上カメノコテントウ幼虫がハムシを食べている。

左下：カメノコテントウの蛹 右下 ハムシの幼虫を食べるシマサシガメ

観察・活動記録（2022年5月23日～7月23日）

バッタ広場 カメノコテントウ幼、カメノコテントウ蛹、カメノコテントウ死骸、ナナホシテントウ、イチモンジセセリ、アカボシゴマダラ、コムスジ、クロアゲハ、モンシロチョウ、アカタテハ、ホシミスジ、キマダラセセリ、オオミズアオ、ウスキクロテンヒメシャク、ヨツボシホソバ、クロバネツリアブ、ナナフシモドキ、ゴミグモ、ササグモ、クビキリ、エノキハムシ幼、オオヒラタシデムシ、オオカマキリ幼、アキアカネ、オオシオカラトンボ♀、ニイニイゼミ幼、タマムシ翅、枯エゴノキ倒れる（枯れ木にキセルガイとキクラゲ）、コアシナガバチ、シオヤアブ、ハラナガツチバチ、クロバネツリアブ、ヒモワタカイガラムシ、マメコガネ、コロギス？、シマサシガメ、ベニシジミ、ショウリョウバッタ、カッコウ鳴く、
 とんぼ池 ザリガニ多、オオシオカラトンボ♂、オオカマキリ幼、ハラビロカマキリ幼、ウコンキバガ、ササグモ、タコノアシ（植物）、
 ため池 ゴマダラチョウ、アオダイショウ、

6月～7月にバッタ広場の木を切りました。

今年は3月頃に実施していたバッタ広場の木の枝切りを延期しました。カマキリの卵が少なかったこと、卵を取って行く人がいるらしいこと、私たちが枝切りするときに卵のついた枝も切ってしまう心配があるためです。6月には木の葉を食べる虫の幼虫達があります。そんなことを考えると生き物に影響の少ない時期というのはないのかもしれない。



6月にはオオカマキリの幼虫が現れ、ほっとしました。

虫たちの季節になると、バッタ広場には、虫取りの親子がやってきます。広場前の看板には、子どもにも読めるように「虫たちをかんさつしたら、もとにかえしてね」と赤い字で書きましたが、効果は期待できそうにありません。クワカミキリも

いなくなっていました。ササ藪にコアシナガバチが巣を作っていたので人の入りにくい場所も必要かもしれません。

年間計画を再検討しましょう。

- ・自然を残し、観察等に利用できる場所をゾーニングする
- ・我々に負担が小さい方法で

7月23日 夏ボラ2022 ボランティア体験「草原にすむ虫などを調べ、虫はどんな環境が好きか考えよう」親子18人が参加して、バッタ広場の生き物調査を実施、18種孵化したばかりのクビキリギリス幼虫を記録。

活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田 090-1423-9894

坂本 090-4618-1295

1 赤塚城址自然観察と手入れ（第2日曜日）（どなたでも参加できます）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。コロナ禍でもできること・・・生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら自然に返します。ササ刈り等の作業もやります（カマは用意します）。

8月14日（日） 10:00～11:30

9月11日（日） 10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装で、軍手、あれば図鑑、虫眼鏡など、

2 「草原にすむ虫などを調べ、虫はどんな環境が好きか考えよう」

（夏ボラ2022ボランティア体験）

8月27日（土） 10:00～11:00

雨天の場合は翌日（問い合わせは090-4618-1295坂本まで）

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

長袖、長ズボン、帽子、汚れてもよい靴、図鑑、昆虫網、虫眼鏡など、

3 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（第4土曜日）

9月24日（土） 10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。軍手（作業手袋）、

4 日暮台公園と樹林地の観察 日暮台公園前集合

8月7日（土） 10:00～11:30

9月4日（日） 10:00～11:30

10月2日（日） 10:00～11:30

●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。